

北陸の放射線診療を支えるために To support the radiological medical care in Hokuriku area

金沢大学附属病院長
金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 放射線科学 教授
蒲 田 敏 文

私は昭和58年に金沢大学医学部を卒業し、すぐに放射線科に入局しました。平成25年6月に放射線科の教授に、そして平成28年4月からは金沢大学附属病院の病院長に就任しました。私達が医学部を卒業した時代(33年前)は現在のような臨床研修制度はなく、基礎の教室や大学以外の病院に就職する人もいましたが、ほとんどの医学部卒業生は母校あるいは出身地の大学の臨床科の医局に入局していました。私と同時に卒業した約120名の同級生のうち80名程度は金沢大学のどこかの医局に入局したと記憶しています。内科も外科も毎年10～15名は確実に入局していたと思います。入局1～2年間大学で専門科の臨床を学んだ後、北陸を中心とした関連病院に3～5年間出口し、大学医局に戻るといったようなコースが多かったように思います。私も入局後3年目に富山県立中央病院、4年目に福井済生会病院、5年目に黒部市民病院の放射線科で1年づつ出向後、大学で2年間助手として勤務し、再度黒部市民病院で1年間出向後、大学に助手として戻りました。その後は継続して大学病院に勤務しています。

私の簡単な経歴でもわかるように、臨床研修制度開始前は各医局への入局者はそれなりに確保されていたので、大学から遠方の奥能登や南加賀あるいは富山、福井の関連病院にも医局から医師をきちんと派遣することができたわけです。その当時は関連病院が医師不足で困っているという話はあまり聞かなかったように思います。

2004年4月からの新しい臨床研修制度開始後はこれまでの医局制度に大きな影響を及ぼしました。つまり、若い研修医が大学に集まらなくなったわけです。全国の病院どこでも応募でき、マッチングすれば2年間その病院で研修できるわけです。われわれ大学関係者は金沢大学医学部の卒業生は最初の2年間都会の病院に行っても、3年後は北陸に戻って入局してくれると思いこんでいました。しかし、実際にはそうではなく、都会の病院で2年間の研修を行った卒業生の多くはそのまま都会の病院に留まり、大学に戻ってきませんでした。その状況が長く続いた影響で、医局からの医師派遣が困難になる関連病院もでてきました。これは北陸の医療を支えてきた金沢大学にとってはゆゆしき問題です。すこしでも初期研修医、後期研修医(入局者)をふやす努力をしていかないと金沢大学附属病院の将来も危うくなりかねません。

参考になるかわかりませんが、私が教授就任以来取り組んできた入局者増のための取り組みを紹介したいと思います。現在金沢大学の放射線科には34名の医局員が在籍しています(診断・IVRが28名、治療が6名、核医学科は別教室で13名在籍)。また、北陸3県(石川15、富山10、

福井7)の32病院に1～7名の放射線科常勤医(合計85名)を派遣しています。地方の国立大学の放射線科としては比較的人数の多い教室だと思います。臨床研修制度後でみると私が教授に就任する前は年平均3.6名(6年間で22名)の新規放射線科入局者がありました。しかし、教授就任時に医局長から言われたのは、今後定年を迎える先生が増えてくるので、このままの入局者の数だと10年後には北陸3県で25名の放射線科専門医が不足するという予測でした。それで、今後も北陸3県の放射線診療を支えるために年間5名の入局者が必要だと考えました。教授就任時のパーティで医局員ならびに放射線科同門会の会員、関連病院の院長の先生方の前で、自分の放射線科教授としての任期の10年間で放射線科医を50名(各年5名平均)増やしたいと宣言しました。数値目標をきちんと伝えてみんなが同じ目標に向かって努力することは、理想を実現するためには大切なことだと思います。

私が教授に就任してから、“10年で50人”が金沢大学放射線科の合い言葉になりました。大学の医局員のみならず北陸3県の関連病院の放射線科医も実習で回ってくる医学生や初期研修医の勧誘に積極的に取り組んでくれるようになりました。関連病院で勉強して放射線科に興味をもってくれた学生や初期研修医は、できるだけ大学の放射線科に見学に来てもらいました。大学の放射線科の業務内容をスタッフが丁寧に説明した後で、私自身が面談し放射線科の仕事の楽しさをアピールしてきました。このような全員一丸となったリクルートの努力の成果はすぐに現れてきました。教授就任の年である平成25年4月は新規入局者は4名でしたが、教授就任翌年からの3年間は毎年7名づつ入局者を迎えることができました。平成29年4月も5名の入局者が予定されています。したがって、ここ5年間で30名(6名/年)の入局者があり、現時点では目標数(5名/年)を超える成果が得られています。予想を上回る数の入局者のおかげで、関連病院への医師派遣も順調に行えるようになりました。今後も気を引き締めてリクルート活動に全力で取り組んでいきたいと考えています。

教授就任以来取り組んできた入局者を増やす我々放射線科の取り組みを紹介しました。大学病院はこれまでも、そしてこれからも地域の医療を支えていかなければなりません。そのためには少しでも多くの若い医師が金沢大学病院に戻ってしてくれるように、魅力ある病院にすることを院長としての今後の目標にしたいと思います。皆様のご支援宜しくお願い申し上げます。